

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No245

現代大学生の学習、就職キャリア意識、余暇との関連など
電通育英会主催『大学生のキャリア意識調査2022』
の報告書(2023年12月)より

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

『大学生のキャリア意識調査2022』 報告書

2023年12月
公益財団法人 電通育英会



60周年を迎えて

TOPICS

財団情報

奨学事業

情報発信・助成事業

お問い合わせ

[奨学金受取中の皆さんへ](#)

[奨学生会員ページ & i](#)

[電通育英会](#) / [情報発信・助成事業](#) / [目的・調査結果引用](#) / [調査結果](#)

大学生の意識調査

目的

大学教育に資する調査研究とデータの公開

大学を中心とする高等教育機関、その他研究機関と協力し、大学生のキャリア意識並びに生活意識・生活行動・学習行動等に関する調査・研究活動を行っています。2007年より京都大学高等教育研究開発推進センターと共同で、大学生のキャリア意識に関するインターネット調査を行っており、調査結果は逐次当財団ホームページで公開すると同時に、ローデータを教育関係者に公開しています。これによりさまざまな角度から多くの研究者の手でデータ解析が行われ、高等教育研究の進展に貢献しています。

調査結果引用

本調査及び調査結果は、より多くの方々にお役立ていただきたく、ここに掲載しています。調査結果を転用する場合は、以下の規約に承諾の上ご利用いただきませう、お願いいたします。転用する際は、出典を以下のように明記してください。

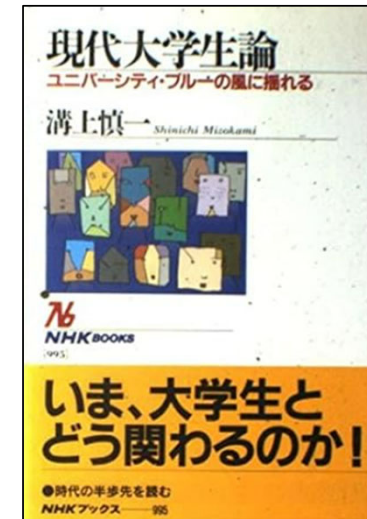
- ・「大学生のキャリア意識調査2022 報告書」
- ・「大学生のキャリア意識調査2022」
- ・「大学生のキャリア意識調査2019 報告書」
- ・「大学生のキャリア意識調査2019」
- ・「大学生のキャリア意識調査2016 報告書」 大学生のキャリア意識調査 2010・2013に関する追加調査2016
- ・「大学生・社会人を対象にしたワークショップの実施」
- ・「大学在学中の『職』に関わる行動と就職活動の実態に関する調査2016」
- ・「大学生のキャリア意識調査 2007-2010-2013年の経年変化」
- ・「京都大学／東京大学／電通育英会共同 学校から仕事へのトランジション調査」



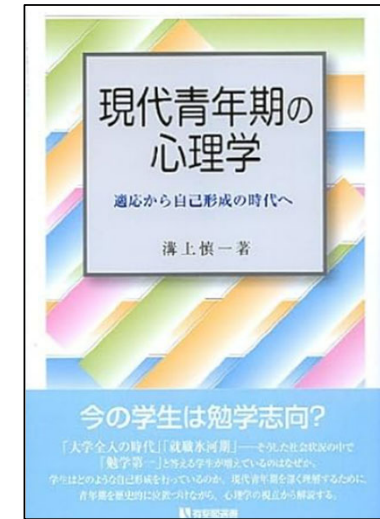
<https://www.dentsu-ikueikai.or.jp/transmission/about-2/>

現代大学生論

- 大学生の実態を把握する基礎資料
- 高大接続の文脈で読み解く
 - ✓いつから将来を考え始めたか（キャリア形成）
- 高等教育の文脈で読み解く
 - ✓授業外学習時間の問題（単位制度、主体的な学習の基盤）
 - ✓キャリア形成（転職、定年後の考え方）
- 青年期・発達心理学の文脈で読み解く
 - ✓自己・アイデンティティ形成、個性的ライフ構築
 - ✓拡張的パーソナリティ（時間・空間）
 - ✓人生100年時代を見据えたキャリア形成



2004年@NHKブックス



2010年@有斐閣選書



2020年@東信堂

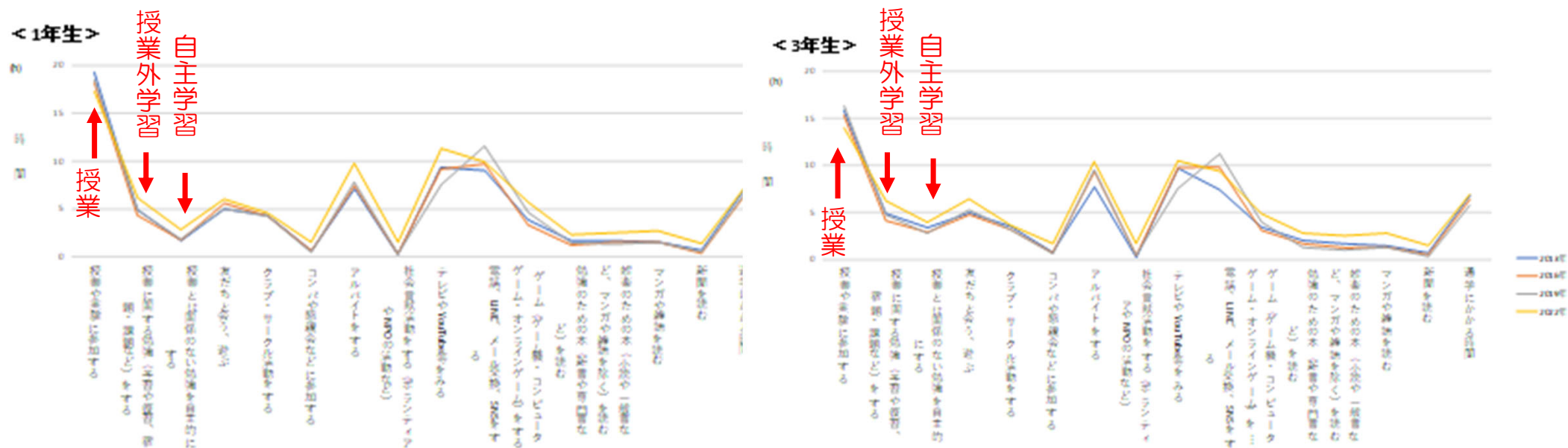


2023年@東信堂

留意点

- 本調査の3年生は2020年度に入学した、いわばコロナ禍の1年目の学生である。大学生活にはその影響が多かれ少なかれ反映していると考えられる。
- もっとも、本調査は2022年に実施されており、大学教育や学生の大学生活は比較的コロナ禍前の状態に戻っているとされる中での調査結果である。

Q4-1. 一週間の生活を振り返って、あなたは次の活動にどれくらいの時間を費やしていますか。



1年生、3年生ともに「授業や実験に参加する」の時間数が減少し、「授業に関する勉強（予習や復習、宿題・課題など）をする」（6.15h, 6.22h＝授業外学習）、「授業とは関係のない勉強を自主的にする」（2.88h, 3.99h＝自主学習）の時間数が増加している。日本の大学生は授業時間数が長く、授業外学習・自主学習の時間数が短かく問題であると論じられてきた。ポストコロナの状態を慎重に見ていかなければならないが、本結果だけを見るなら望ましい傾向である。

Q5. あなたの学生生活は充実していますか。

<1年生>



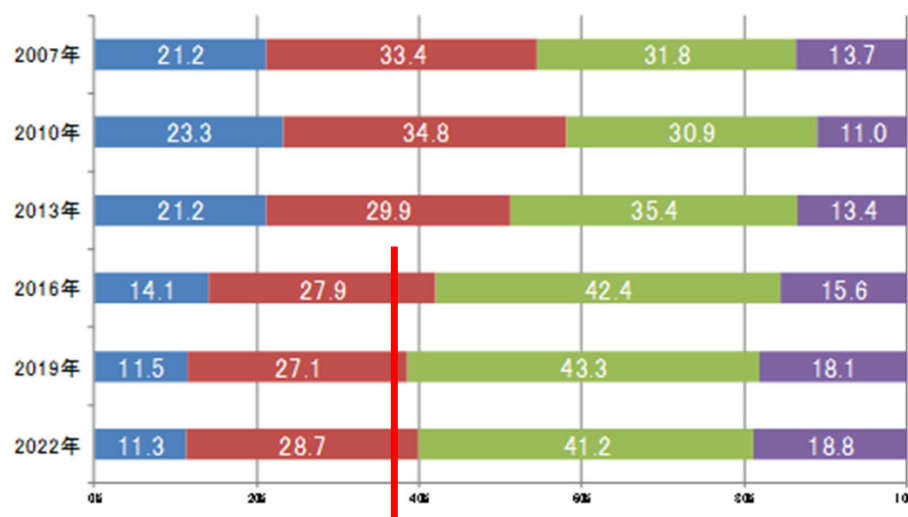
<3年生>



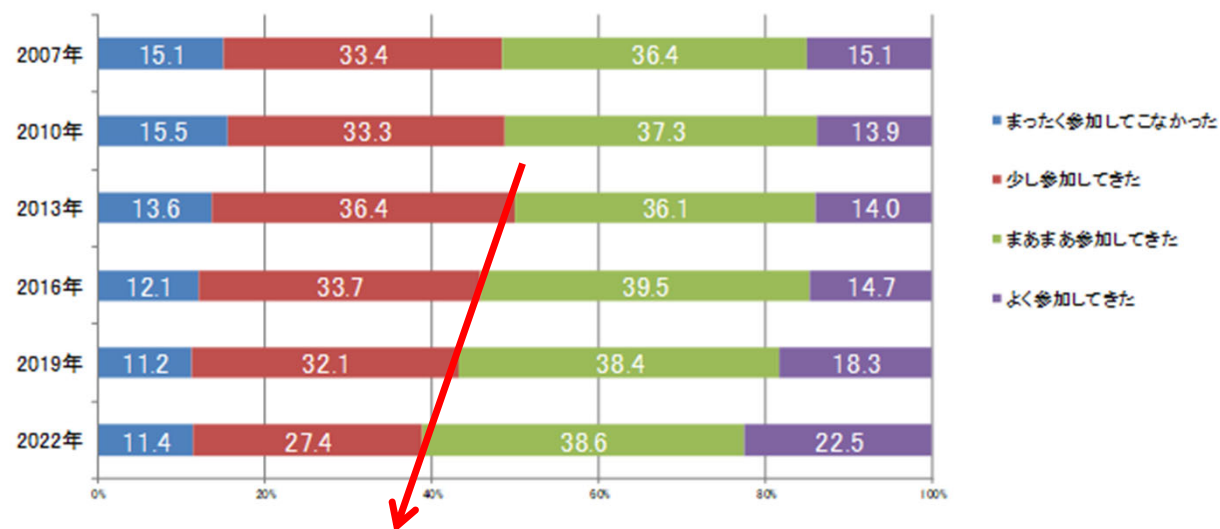
全体的に学生生活の充実感は高い。2010～2022年にかけて充実感は増加傾向にあり、とくに1年生で顕著である。

Q11. あなたは、大学に入ってから、ある問題を考えたり、発表したり、ディスカッションをしたりする参加型の授業や演習にどの程度参加してきましたか。

<1年生>

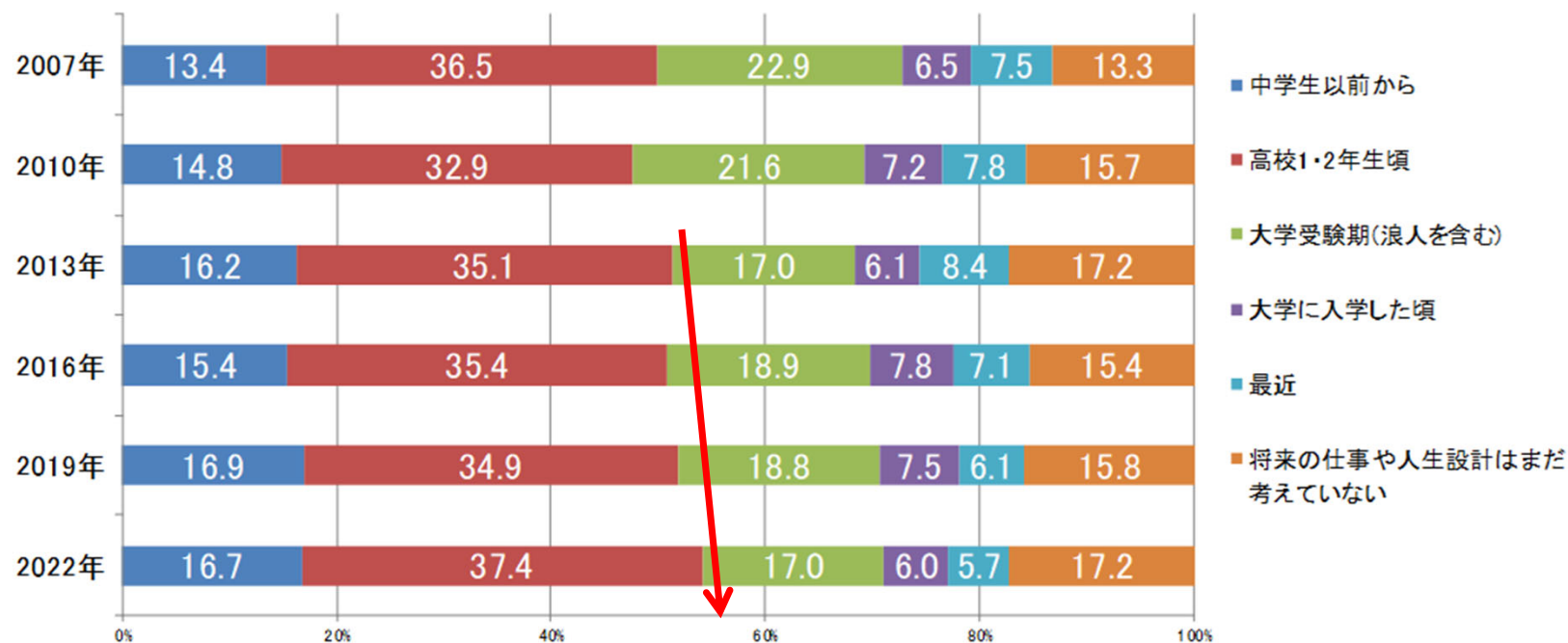


<3年生>



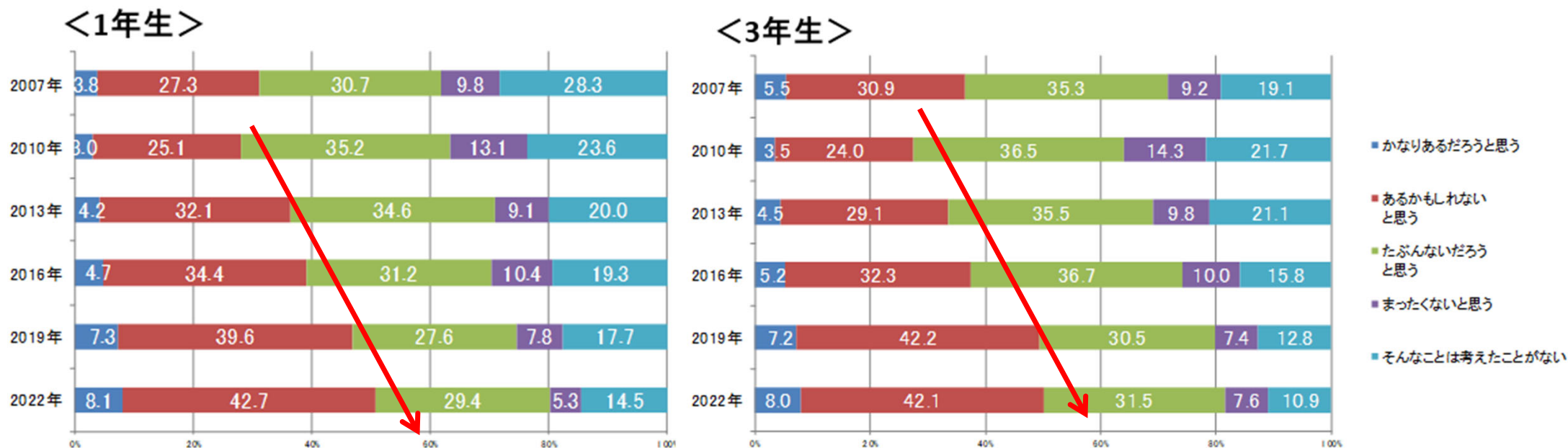
1年生で60.0%、3年生で61.1%の学生が、参加型の授業や演習に参加してきたと回答している。2013～2022年にかけて、1年生に大きな変化はなく3年生で増加傾向が認められる。

Q16 あなたは、現在考える将来の仕事や人生を、いつ頃から考え始めましたか。



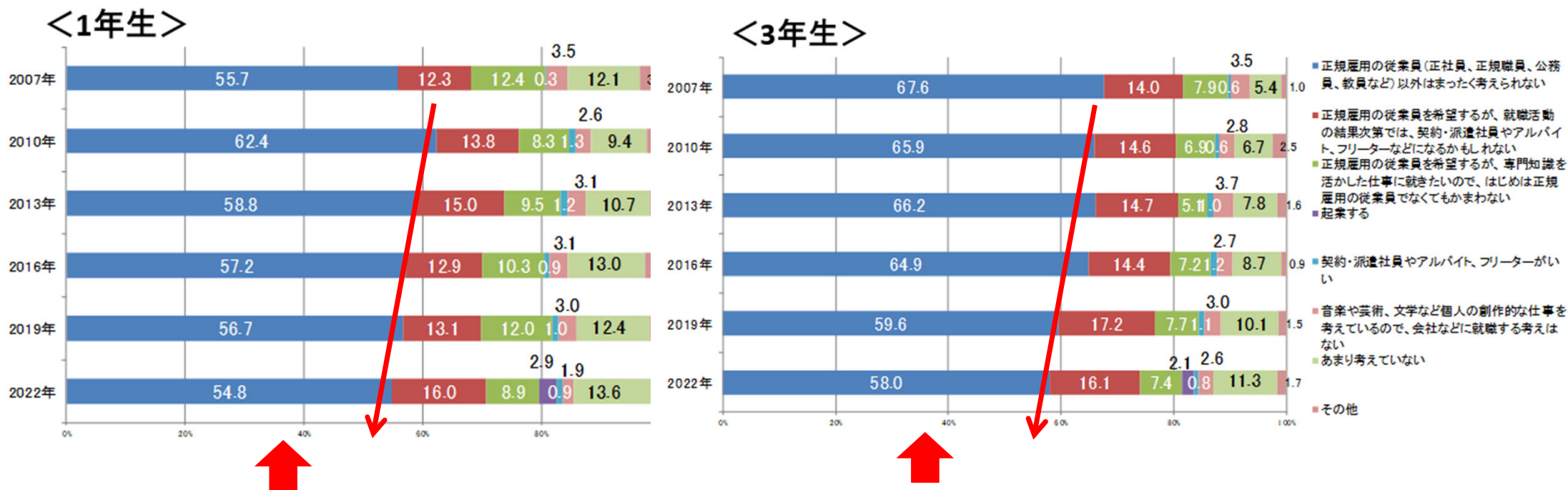
中学生以前から” “高校1・2年生頃” を合わせると、54.1%の学生が、現在考える将来の仕事や人生設計を考え始めたと回答している。2007～2022年にかけて若干増加傾向が認められる。

Q21. あなたは将来就職して3年以内に、どの程度転職があるだろうと予想していますか。あてはまるものを1つお知らせください。



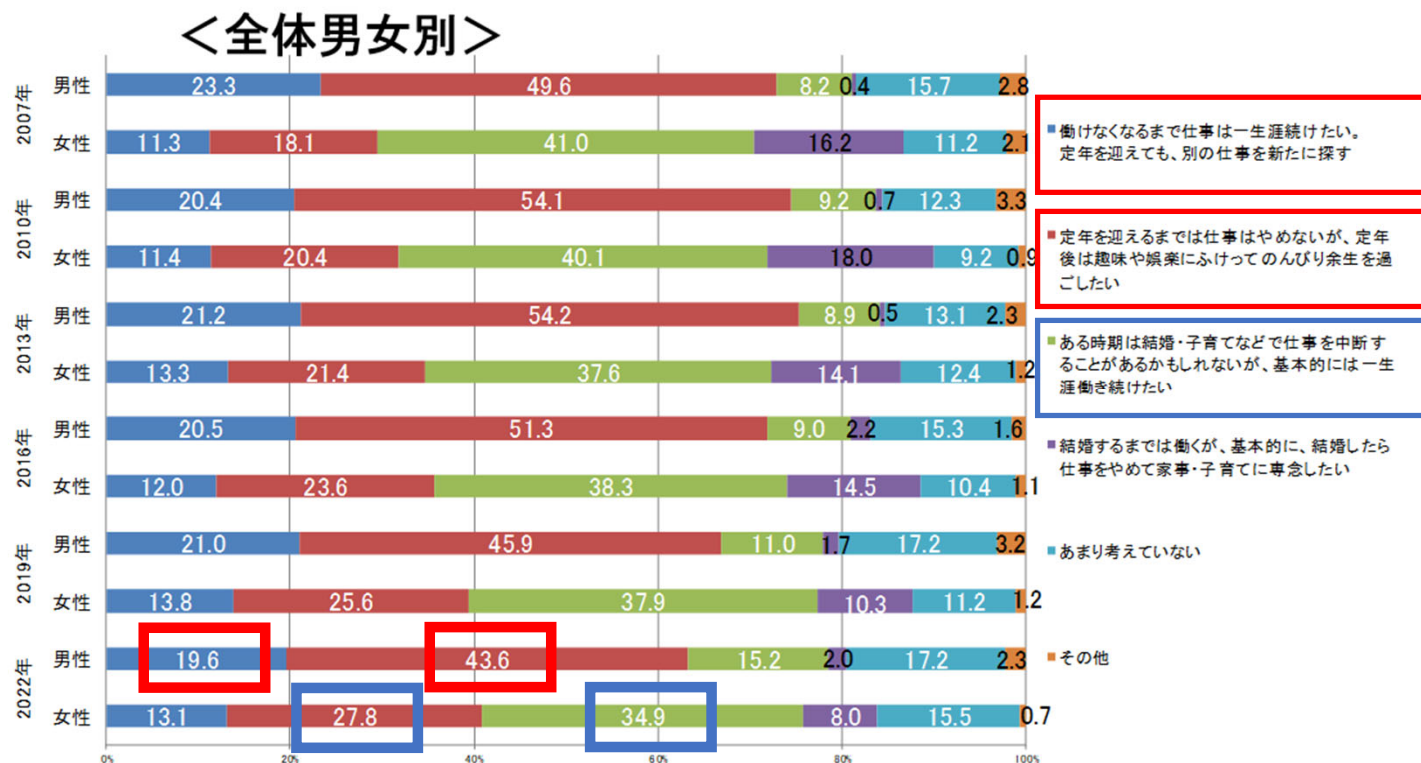
1年生で50.8%、3年生で50.1%の学生が転職があるだろうと予想している。男女別に見ても大きくは変わらない。2010~2022年にかけて増加傾向である。

Q22. 就職時の雇用形態に関する次の文章を読んで、あなたの考えにもっとも近いものを1つお知らせください



1年生で54.8%、3年生で58.0%の学生が、正規雇用以外は考えられないと回答している。2010～2022年にかけて減少傾向である。

Q23. あなたが就職した場合、仕事をいつまで続けようと考えていますか。

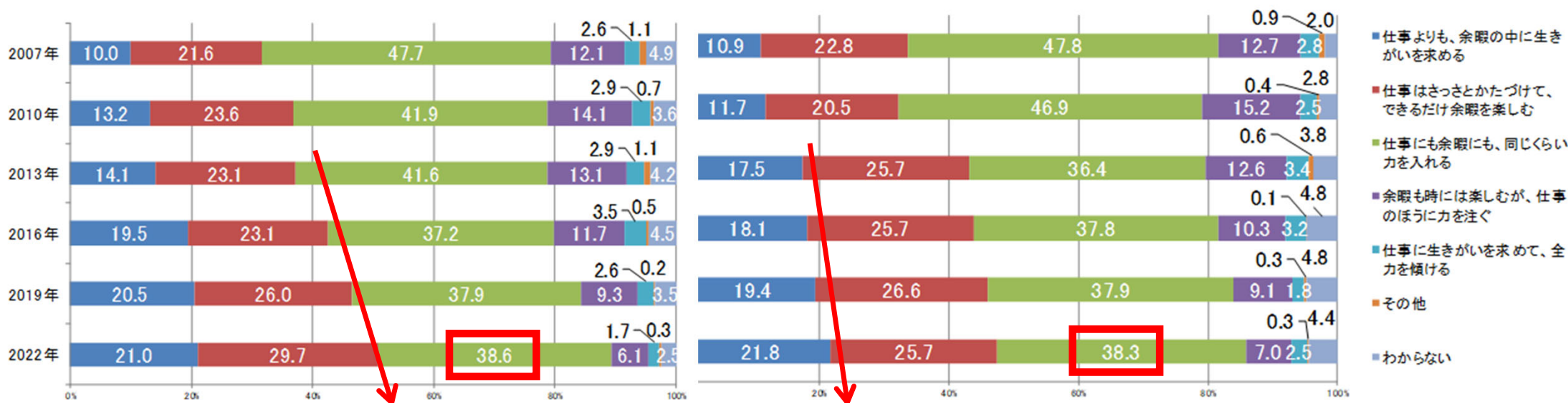


男性で最も多く見られたのは“定年を迎えるまでは仕事はやめないが、定年後は趣味や娯楽にふけてのんびり余生を過ごしたい”であり（43.6%）、女性では“ある時期は結婚・子育てなどで仕事を中断することがあるかもしれないが、基本的には一生涯働き続けたい”であった（34.9%）。2007～2022年にかけてこの傾向に変化はないが、いずれも減少傾向である。代わりに増加傾向にあるのは男女で“あまり考えていない”（順に17.2%、15.5%）、女性で“定年を迎えるまでは仕事はやめないが、定年後は趣味や娯楽にふけてのんびり余生を過ごしたい”であった（27.8%）。

Q25. 仕事と余暇のあり方について、あなたはどれが最も望ましいと思いますか。
 (NHK放送文化研究所編『日本人の意識調査』2004より)

<1年生>

<3年生>



最も多く見られたのは、1年生、3年生ともに“仕事にも余暇にも、同じくらい力を入れる”であった。2007～2022年にかけての変化を見ると、1年生、3年生ともに“仕事よりも余暇の中に生きがいを求める”“仕事はさっさとかたづけて、できるだけ余暇を楽しむ”が増加傾向である。

興味のある方は報告書も ご覧ください

『大学生のキャリア意識調査2022』
動画下の概要欄にURLを張っています

ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。
E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

